

測量界の将来のために取り組みを希望

株式会社 渡辺測研 代表取締役 渡邊 勝巳

私は、現在62歳の測量業を営む小さな測量会社の社長をしております（2年前まで福岡県測量設計業協会副会長をし、基準点1級NO.24資格認定者です）。今日、手紙を送りましたのは2つのことについて考えていただければと個人的な意見ですがお送りしました。1つは、現在日本測量協会で実施されている「地理空間情報専門技術認定登録の更新」についてですが、これから本格的に活用される地理空間情報時代の測量技術を継続的に推進するという、一見、理想としては大変いい部分もあるのかなとも思います。私は、年齢からいっても貴協会で考えられる技術の継続学習として今回は自分の勉強として参加したいと思いますが、5年周期の更新というのをご一考いただければと思います。

2つ目として、地理院・貴協会・全測連（各県測）の方々の努力により、ホームページでも「劔岳 点の記」の映画化とPRは測量業を紹介する上で大変良いことだと思っています。私も、昭和41年より62年まで国土地理院発注の基準点測量を、特に昭和56年には穂高地区、昭和60年には諏訪地区、この他にも6年間、精密測地網の作業班長として作業させていただきました。特に九州からの会社で、高山・寒冷地・長期作業の中で作業員にも若気の至りというか随分苦

労もかけました（1982年2月号 精密測地網一次基準点測量穂高地区、1986年5月号 寒冷地での作業と反省 諏訪地区 日本測量協会機関誌『測量』載）。

今回の、映画「劔岳 点の記」では、明治の測量官がなしえた足跡から測量を業とする以外の方々に仕事・測量の重要性を知っていただき、さらに世界測地系といわれる日本の国の地理情報の根幹が新しい昭和・平成の時代にも多くの測量技術者の努力によりなされたことを、この機会に大きくPRすべきではないでしょうか？

現在の測量業界を考えた場合、若者に生きがい・経済的に良い職業かと考えると「はい」とは言えない業種だと思います。私達の時代は厳しい時代ではありましたが、将来の夢はあったように思います（測量業と家屋調査士・測量単価・測量屋の地位と給料・発注の問題等）。測量業を営む私も、息子はこの業界に就くことなく一代でおわりかなと思いつつも、後進の社員に測量の重要性と根性の植え付けに頑張っています。

測量協会の方々も技術の研修・業界のいろいろな問題もあることとは思いますが、測量を職とする多くの人々の代表協会として、指導・努力されることを要望いたします。